

健康 ぷらざ

ましん 麻疹(はしか)

— ワクチンで強いウイルスから体を守ろう —

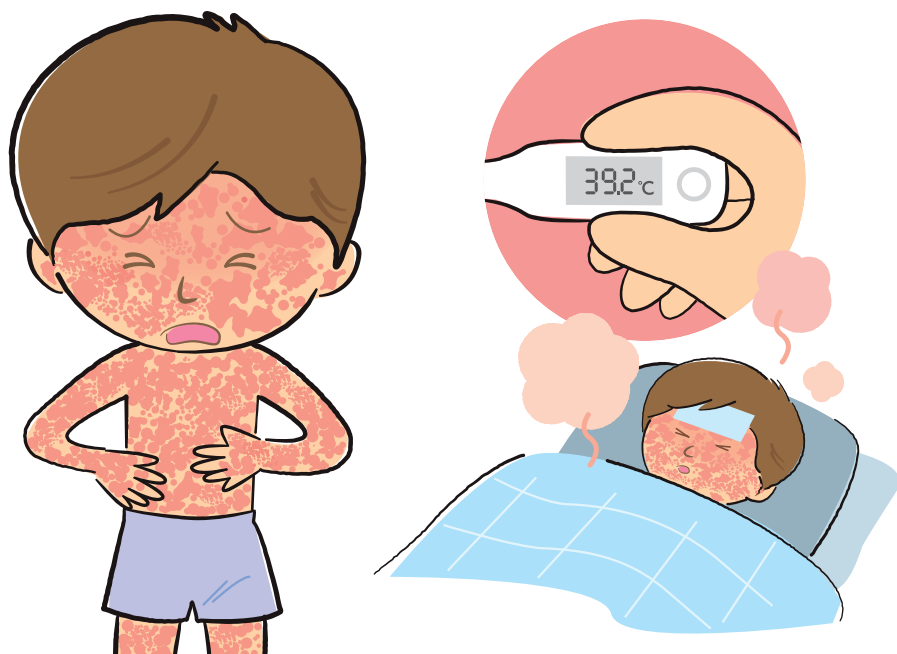
大阪市立総合医療センター小児救急・感染症内科 医長 奥野 英雄

企画：
日本医師会

No. 576

麻疹(はしか)とは

麻疹ウイルスによって起きる感染症です。麻疹ウイルスに感染すると10～12日の潜伏期間を経て、咳や鼻水などの上気道炎や、目やにを伴う結膜炎症状を発症します。38℃以上の発熱や、強いだるさもみられます。そのような症状が2～4日続いたのちに、麻疹の特徴である発疹が、一般的には顔から始まり、体幹部や四肢にかけて2、3日で一気に広がります。発疹とともに咳や鼻水、目やになどの症状が悪化し、発熱は時に40℃に達するほどの高熱になります。発疹が全身に広がる時期の3、4の間は発熱が続き、その後、症状は改善します。



どうやって感染するの？

麻疹ウイルスは感染性が非常に強く、空気感染を引き起こすことが知られています。麻疹の患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる麻疹ウイルスは、感染する力を維持したままで1時間以上も空気中を漂い続けることがあります。麻疹ウイルスに対する免疫がない人は、感染するとほぼ100%発症します。

予防のためには

麻疹ウイルスに対する治療薬は現在もありません。そのため、ワクチンによる予防が最も重要です。麻疹ウイルスに対しては有効なワクチンがあり、1回の接種で95%以上、2回の接種で99%以上の割合で免疫力を得ることができます。現在、日本では、1歳以上の子どもを対象に、ワクチンが定期接種されています。日本では2015年3月以降、麻疹の排除状態が維持されていますが、海外からの輸入症例を中心として麻疹の発生が報告されています。子どもだけでなく、成人であっても、麻疹に対するワクチンを2回以上接種しておくことが重要です。過去に麻疹にかかったことがなく、ワクチン接種を受けたことのない方は、かかりつけの医師にご相談ください。

